

「自分にほれ直す」をコンセプトとしたポートレート撮影

中村美穂 (フォトグラファー)



料理を作るのが好きで、自作したものをコンパクトデジタルカメラで撮影しているうちに「もっと美しく撮りたい」と思うようになり、一眼レフカメラで本格的に撮影するようになった中村美穂氏。以来、撮影することの楽しさに目覚め、作り手の想いのこもった心と体に美味しい食べ物の撮影に没頭するようになった。

「作ることも食べることも好き」な中村氏は、自宅で作った食べ物や店舗で食べたものを、自ら撮影した写真とともにブログで紹介。多くの人から注目を集め、それがきっかけとなって2015年9月、今まで撮影した食べ物の写真に短い文を付けて初めての個展を開催した。

その後、個展が契機となりフォトグラファー活動を開始。食べ物を撮ることに特化した写真講座の講師を務めたり、出版社のWebサイトの取材、撮影、執筆なども行ってきた。昨年はポートレート撮影も本格的に行うように。

「元々、写真を撮るのは好きでしたが、撮られるのは嫌いでした。学生時代に『写真うつり、良いよね』と言われたことがあり、それをネガティブに捉えてしまいました。つまり実物は写真より可愛くないってこと

かと(笑)。それがトラウマになってしまったのが原因でしたが、ある日、同じフォトグラファー仲間写真に撮っていただいたとき、自然で綺麗に写っていたことに感動しました。プロによる撮影ですからクオリティが高いのはもちろんですが、自分の顔は鏡で見ることでしかわからず、私以外の人が、私自身の知らないこんな素敵な表情を見てくれているのかと。写真を見て素直に良いと思ひ、そして私のように写真を撮られるのが苦手という人にも、その人自身の持っている良さ(美しさや格好良さ)を再確認してもらえる写真を撮りたいと思ったのです」。

撮影は基本的に独学である。写真学校やスタジオで修行することなく、自らの感性を活かして撮り続けてきた。技術的に見当はずれな方向に行くことのないように、撮影に関するテキスト本を見て裏付けもしてきた。そしてそれは概ね間違っていないかった。

「人物と同様、料理にも表情があります。どの角度から撮ると、より美味しそうに写るのか、構図はどうするかなど、いろいろと考えながら撮ってきました。人物撮影でも、どの角度だとキレイに、格好良く写し

出すことができるか、そういう部分を見つけて撮るようにしています」。

ちなみに、料理写真の講座を行うときに中村氏は「お店では、撮ることではなく食事をするのが一番の目的です。それが作り手と食べ物に対する礼儀です。素早く撮って美味しくいただきますよ。」と受講者に伝えている。

顧客の持つ美しさや格好良さを引き出す

ブログには中村氏の人となりが見られるような文章が写真とともに掲載されている。ライターでもあることから、読む人を惹きつける文面と写真に関心を持たれ、そして撮影を依頼されるケース、さらには口コミによって注文を受ける機会も。「ブログは常時、自分の代わりに営業してくれているコンテンツ。検索でヒットしたり、継続して読んでくださる方もいて、そこからお仕事につながるケースもあり、本当にありがたいです」。ブログを雑誌にたとえるならば、編集長は執筆する自分自身。なかなか言葉だけでは表現しづらいことも、写真とともに綴ることができる。そしてそれが、見る

人、読む人に何らかのメッセージを与えることもある。

昨秋、七五三の撮影で神社に行ったとき、大勢の参拝者(とフォトグラファー)がいて、人物撮影を開始してまだ1年目だった中村氏は少なからず戸惑った。そこに「撮れました?」と声をかけてくれたフォトグラファーがいた。ファミリースタイルフォト・織田隆一氏である。

「その日は本当に人が多く、1組のお客さまに対して専属のフォトグラファーがいる、というような状況でした。そしてその後、穴場の撮影スポット等をご紹介いただきました。それが縁で織田さんが開催されているセミナーにもお伺いさせていただき、現在もいろいろと勉強させていただいています」。

写真が人生の転機となることもある。人物撮影において、事前のヒアリングで「撮ってもらいたい自分像」を伝えてもらい、やり取りしてから撮影することで、それまで撮られることに苦手意識があった人が、写真を見て自信が湧き、自己肯定感のアップにもつながるなど。

「写真は、生きていたことを後世に残すことができ、そして何度も見返すことができ

るもの。撮りたい、残したいと思って私に撮影を依頼してくださる方々には、想いや記憶を写真で残すことに意味を見出せるものとなるよう、全力で撮らせていただいています」。中村氏の撮るポートレートのコンセプトは「自分にほれ直す」。そうした想いを込めて撮影している。

さまざまな人との出会いが、フォトグラファーとしての活動を形にしていって。専業主婦をしていた頃はヘルシーな料理やおやつを作るのが趣味で、それを残したくて写真を撮っていただけだった。後にフォトグラファーや写真講座の講師として活動するなど夢にも思っていなかった。

塾講師のアルバイトをしながら大学で教員免許を取得したこと、絵本の読み聞かせをするためにボイストレーニングを受けたことなど、それまでの人生でいろいろなことに取り組んできた経験が、ある日、手相をみて言ってもらった前向きな言葉がきっかけで、今の活動をスタートすることにつながり、継続していくことに少なからず影響した。

「自分がやりたいと思ったことに対しては、勇気を出して行動しながら、考えて修正していくようにしています。やりたいと

思わないことは極力やらないように。いろいろと吸収してきたことが今の自分を作っていると思うので、これからも美しいと思うものにもっと積極的に触れていきたいと考えています」。

今後も食べ物や人物撮影を中心に、フォトグラファーとしてさらに邁進していく考えだ。

「いろいろな分野に一流の方、巨匠と呼ばれる方がいます。実際にお会いしたり、そういった方々の作品を見るだけでも、刺激を受ける部分は多々あります。それを糧にしながら、どういうやり方が正解というのはなく、それぞれ自分のスタイルに自信を持ってやっていけばいいのではないかと。自分に集中しなければ何も生み出せないし、行動することができません。独学であることにコンプレックスを感じるのではなく、技術の研鑽とともに、自分なりに自信を持ってお客様の満足を追求していくことが大事なのだ、先輩方の姿やいただいた言葉から思っています。人物撮影に関しては、今後も勉強していきながら、ご依頼いただいた方々の美しさや格好良さを引き出し、自分に惚れ直していただけるような写真を撮り続けていきたいと考えています」。